

献呈のことば

倉田彰士先生は、平成八年三月末をもって、本学を退職されました。先生は、そのご研究と教育において、また法学部長として、さらに本学の学長として、本学と法学部の発展に多大なご尽力をされてきました。私どもはその永年のご功績にたいして、深甚な敬意の念をもって、ここに退職記念論文集を刊行し、先生に捧げることになりました。

倉田先生の多方面に渡るご活躍は、文字通り余人の追隨を許さぬものがあります。ご専門の民法の分野で、数々の珠玉の研究業績を積み上げられてこられたことは、学界においても実務界においても、遍く知られるところであり、多くの私法研究者が大なり小なり先生の影響を受けてきましたことは多言を要しないところであります。

先生は、その大学教授や学長としての極めて多忙な職務の傍ら、私法学会理事、私立大学協会理事、大学基準協会評議員、全日本大学野球連盟理事、など数多くの要職を歴任され、手腕を発揮されてこられました。現在もその任にとどまっておられるものも少なくありません。

先生は、本学における三〇年と甲南大学、大阪商業大学とを合わせて、大学人としての四〇年余に及ぶ日々のなかで、数多くの個性ある優れた学生、大学院生を、社会に、また、世界に送り出してこられました。近年は、中国上海交通大学顧問教授としてのお仕事を通して、その若き日からの中国への並々ならぬご造詣を生かされ、中国と日本との学術文化交流に大きく貢献されてきたことは、内外に広く知られているところであります。

先生は、飾ることのない恬淡としたお人柄で、象牙の塔の人でありながら一方で世事にも詳しく、法学部のスタッフの誰とでも、気軽にちよつとした相談にもものつて、温かく接してくださり、敬意と親しみを得てこられました。学内を飄々として歩かれる、その絵になるすらりと背筋を伸ばした長身のお姿は、真に本学のバックボーンに相応しいものでありました。

倉田先生は、現在も、晴耕雨読の日々には遠く、神戸学院女子短期大学の学長として、その発展のために、私どもを遙かに凌ぐ重責を担われて寸秒を惜しむ毎日を送っておられます。ご多忙のなかでも、何卒ご自愛くださいまして、一層ご壮健であられることをお祈りしますとともに、いつまでも後進の私どもを御指導くださいますよう心からお願ひ申し上げます。

一九九七年七月

法学部長 中村 宏